

平成24年度 日本デザイン学会 第59回総会

■日時：平成24年6月22日(金)
13:00~14:00

■会場：

札幌市立大学

サテライトキャンパス

総会資料

*本冊子は総会資料を綴じ合わせたものです。
限られた時間ですので十分な説明もできかね
ると思いますが、その節は本冊子によくお目
をお通しくださいまいすようお願い申し上げ
ます。

■次第

■司会：佐藤弘喜 本部事務局長

1. 総会成立の確認ならびに開会宣言... 佐藤弘喜 本部事務局長
2. 会長挨拶・活動方針説明..... 山中敏正 会長
3. 議長団選出..... 佐藤弘喜 本部事務局長
4. 議事..... 議長団

4.1. 平成23年度活動報告..... 蓮見 孝 前副会長

- (1) 論文審査・論文集編集委員会..... 渡邊誠 前委員長
- (2) 作品審査・作品集編集委員会..... 須永剛司 前委員長
- (3) 学会誌編集・出版委員会..... 小林昭世 前委員長
- (4) 研究推進委員会..... 古屋繁 前委員長
- (5) 企画委員会 総合企画..... 尾登誠一 前委員長
- (6) 企画委員会 支部企画..... 青木幹太 前委員長
- (7) 教育・資格委員会..... 蓮見孝 前委員長
- (8) 広報委員会..... 山中敏正 前委員長
- (9) 財務委員会..... 野口尚孝 前委員長
- (10) 市販図書企画・編集委員会..... 宮崎清 前委員長
- (11) 平成23年度春季研究発表大会実行委員会..... 上原勝 実行委員長
- (12) 平成23年度秋季企画大会実行委員会..... 村上存 実行委員長
- (13) 学会各賞選考委員会..... 宮崎清 前委員長
- (14) Designシンポジウム..... 松岡由幸 前委員長
- (15) IASDR担当..... 杉山和雄 前担当理事
- (16) 日本学術会議担当..... 黒川威人 前担当理事,
清水泰博 前担当理事,
蓮見孝 前担当理事
- (17) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当..... 松岡由幸 前担当理事
- (18) 日本工学会担当..... 國澤好衛 前担当理事
- (19) 本部事務局..... 國澤好衛 前本部事務局長
- (20) 第1支部..... 梨原宏 前支部長
- (21) 第2支部..... 佐々木美貴 前支部長
- (22) 第3支部..... 佐々木尚孝 前支部長
- (23) 第4支部..... 三橋俊雄 前支部長
- (24) 第5支部..... 青木幹太 前支部長

4.2. 平成23年度決算報告..... 國澤好衛 前本部事務局長

4.3. 平成23年度会計監査報告..... 杉山和雄 前監査, 宮崎清 前監査

4.4. 平成23年度決算審議..... 議長団

4.5. 平成24年度活動計画..... 松岡由幸 副会長

- (1) 論文審査委員会..... 久保光徳 委員長
- (2) 作品審査委員会..... 清水泰博 委員長
- (3) 学会誌編集・出版委員会..... 岡崎章 委員長
- (4) 研究推進委員会..... 須永剛司 委員長
- (5) 企画委員会 総合企画..... 松岡由幸 委員長
- (6) 企画委員会 支部企画..... 浅沼尚 委員長
- (7) 教育・資格委員会..... 山内勉 委員長
- (8) 広報委員会..... 山崎和彦 委員長
- (9) 財務委員会..... 生田目美紀 委員長
- (10) 市販図書企画・編集委員会..... 井上勝雄 委員長
- (11) Designシンポジウム..... 松岡由幸 委員長
- (12) IASDR担当..... 古屋繁 担当理事
- (13) 日本学術会議担当..... 清水泰博 担当理事,
森田昌嗣 担当理事,
松岡由幸 担当理事
- (14) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当..... 國澤好衛 担当理事
- (15) 日本工学会担当..... 佐藤弘喜 本部事務局長
- (16) 本部事務局..... 佐藤弘喜 本部事務局長
- (17) 第1支部..... 両角清隆 支部長
- (18) 第2支部..... 浅沼尚 支部長
- (19) 第3支部..... 國本桂史 支部長
- (20) 第4支部..... 三橋俊雄 支部長
- (21) 第5支部..... 伊原久裕 支部長

4.6. 平成24年度予算案説明..... 佐藤弘喜 本部事務局長

4.7. 平成24年度予算案審議..... 議長団

5. 議長団退席..... 佐藤弘喜 本部事務局長

6. 名誉会員証贈呈..... 山中敏正 会長

7. 閉会挨拶..... 佐藤弘喜 本部事務局長

平成24年度日本デザイン学会活動方針

会長 山中敏正

基本方針

ー デザイン学のさらなる普及と活用に向けて ー

こころの世紀といわれる21世紀が始まって10年が経過し、科学・工学の発達、人のこころの理解に基づく物質や情報の価値を明らかにする可能性を見せ始めています。一方で、阪神淡路大震災の経験も生々しいうちに東日本を襲った未曾有の大災害によって物質性とこころの状態の乖離にも改めて気づかされています。

デザインが目指すものは充実し心地よく希望を持てる心の状態であり、それを支えるメディアとしての形や機能や情報の設計です。今や、人間社会が生み出すもの全てが、「人のこころにどのように響くのか」ということを基準として評価されざるを得ないということが明らかになっているなか、デザイン学はますます社会に必要な研究として位置付けられるべきであると言えるでしょう。

学会運営では、平成20年度からの4年間で会員制度に大きな改革が加えられ、本年度から学生会員の学会参加が可能となりました。学会誌はCiNiiを活用した創刊号からの電子化が完了し、J-Stageを活用したオンラインジャーナル化に踏み出しました。また、10年ぶりに日本開催が決まったIASDRは、今回も日本学術会議・日本感性工学会との共同主催が決まり、国家行事としてのデザイン学の位置づけを強化します。こうした会員サービス・研究支援の充実と歩みを合わせるように、学会の積年の努力が実り、科学研究費補助金において複合領域の分科としてデザイン学が設定されました。全ては、これまでの会員諸氏ならびに理事幹事諸氏のご尽力の賜と言えるでしょう。

新たな陣容として活動を開始するこれからの2年間は、学術としての基盤を獲得したデザイン学をさらに展開し、情報流通システムを活用して国内外に広く普及させ、さらに実践におけるデザイン学の活用も視野にいれつつ、広く充実した研究者のソサエティ構築に向けて、理事会一丸となって活動を展開してゆきたいと考えています。

皆様方のより一層のご支援やご協力をお願い申し上げる次第でございます。

基本施策

1. 学会活動の基盤としての、論文・作品・記事のありかたに関する検討
 - ・論文・作品の適切な審査と、審査基準・対象の再構築
 - ・論文審査の電子化、効率化と国際化の推進
 - ・編集出版委員会主導によるオンラインジャーナル化推進と、デザイン学会らしい電子化の可能性を検討
2. 国際化、国内外他学協会、産官との事業連携強化
 - ・IASDR2013の運営
 - ・デザイナーの資格制度と継続教育（CPD）、ア krediteーションのあり方に対する検討
 - ・産業界との連携強化
 - ・国際デザイン学会誌発刊に向けた協力体制の確立
3. 学術環境の整備
 - ・科学研究費補助金・分科「デザイン学」のさらなる拡充に向けた研究活性化の推進
4. 春季研究発表大会、秋季企画大会の活性化
 - ・オーガナイズドセッション・学生プロポジション等を活用した産学官協力研究と広報体制の充実
 - ・春季発表件数の増加策、秋季企画内容の充実策検討
5. 会員制度の拡大と財務の改善
 - ・学生会員制度を活用した学会活動の活性化
 - ・制度拡大に伴う財務基盤の整備
 - ・インセンティブ施策の検討
6. 法人化に向けた検討
 - ・法人化に向けた対応策と体制確立に向けた具体策検討
7. 支部活動活性化策のさらなる推進
 - ・支部間、学会との活動情報・成果の共有と連携強化
 - ・活動単位（支部地区割）の検討
8. 研究部会のあり方に対する検討
 - ・研究部会主導による学会編纂図書の刊行
 - ・講習会・セミナー等の開催
 - ・専門的、横断的課題による競争的外部資金獲得策検討
9. 広報活動の強化
 - ・協賛・広報活動を通じた、関連学会との連携強化
 - ・学会ホームページ充実策の検討
10. 会則、諸規定のタイムリーな見直し

平成24年度 会長，副会長，理事一覧

会長	山中 敏正	筑波大学 芸術系
副会長	松岡 由幸	慶應義塾大学 大学院 総合デザイン工学専攻
	須永 剛司	多摩美術大学 美術学部 情報デザイン学科
監査	青木 弘行	千葉大学 大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	野口 尚孝	フリーランス
理事	青木 史郎	公益財団法人日本デザイン振興会
	浅沼 尚	株式会社 東芝 デザインセンター
	池田 岳史	福井工業大学 工学部 デザイン学科
	井上 勝雄	広島国際大学 心理科学部 感性デザイン学科
	伊原 久裕	九州大学 大学院芸術工学研究院 コンテンツ・クリエイティブデザイン部門
	岡崎 章	拓殖大学 工学部 デザイン学科
	小野 健太	千葉大学 大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	片岡 篤	日産自動車株式会社 デザイン本部 パーシブド・クオリティ部
	黄 ロビン	名古屋学芸大学 デザイン学科
	清水 泰博	東京芸術大学 美術学部 デザイン科
	國本 桂史	名古屋市立大学 大学院 芸術工学研究科
	久保 雅義	京都工芸繊維大学 大学院 工芸科学研究科
	久保 光徳	千葉大学 大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	佐藤 弘喜	千葉工業大学 工学部 デザイン科学科
	杉下 哲	東京工芸大学 芸術学部 デザイン学科
	高野 修治	湘南工科大学 工学部 コンピュータデザイン学科
	田村 良一	九州大学 大学院 芸術工学研究院 デザインストラテジー部門
	永井 由佳里	北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科
	中嶋 猛夫	女子美術大学 芸術学部 デザイン工芸学科 環境デザイン専攻
	生田目 美紀	筑波技術大学 産業技術学部 総合デザイン学科
	萩原 将文	慶應義塾大学 理工学部 情報工学科
	橋田 規子	芝浦工業大学 デザイン工学部
	蓮見 孝	札幌市立大学
	細谷 多聞	札幌市立大学 デザイン学部
	三橋 俊雄	京都府立大学 大学院 生命環境科学研究科 環境デザイン学科
	森田 昌嗣	九州大学 大学院 芸術工学研究院
	両角 清隆	東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科
	山内 勉	福井工業大学 工学部 デザイン学科
	山崎 和彦	千葉工業大学 工学部 デザイン科学科
特設理事	工藤 芳彰	拓殖大学 工学部 デザイン学科
	國澤 好衛	産業技術大学院大学 産業技術研究科
	杉山 和雄	芝浦工業大学 デザイン工学部
	寺内 文雄	千葉大学 大学院 工学研究科 デザイン科学専攻
	古屋 繁	芝浦工業大学 デザイン工学部

平成24年度 日本デザイン学会組織



平成24年度 日本デザイン学会 委員会等一覧

○運営理事，＊特設理事，＋幹事長

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	○ 佐藤 弘喜	小野 健太	＋ 八馬 智

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	○ 久保 光徳	松岡 由幸 森田 昌嗣 萩原 将文	＋ 小山 慎一 氏家 良樹 岡田 栄造 加藤 健郎 境野 広志 萩原 祐志
作品審査委員会	○ 清水 泰博	須永 剛司 高野 修治 生田目 美紀	＋ 山内 貴博 加藤 健郎 永盛 祐介
学会誌編集・出版委員会	○ 岡崎 章	黄 ロビン 永井 由佳里 (会報担当兼務) 寺内文雄＊ 工藤 芳彰＊	
研究推進委員会	○ 須永 剛司	久保 雅義 中嶋 猛夫 杉下 哲	＋ 吉橋昭夫 平松早苗
企画委員会 総合企画	○ 松岡 由幸	山崎 和彦 池田 岳史	＋ 佐藤 浩一郎
支部企画	○ 浅沼 尚	両角 清隆 國本 桂史 三橋 俊雄 伊原 久裕	＋ 北村 武士 柚木 泰彦 滝本 成人 益岡 了 井上 貢一
教育・資格委員会	○ 山内 勉	青木 史郎 片岡 篤 蓮見 孝	＋ 小野 健太 蘆澤 雄亮 横田 英夫
広報委員会	○ 山崎 和彦	小野健太	＋ 内山 俊朗 大島 直樹 中本 和宏
財務委員会	○ 生田目 美紀	佐藤 弘喜	＋ 大嶋 辰夫
市販図書企画・編集委員会	井上 勝雄	松岡 由幸	＋ 氏家 良樹
春季研究発表大会概要集編集委員会	細谷 多聞	橋田 規子 久保 光徳	＋ 柿山 浩一郎

委員会等担当	担当
学会各賞選考委員会担当	松岡 由幸
春季研究発表大会担当	細谷 多聞
秋季企画大会担当	山崎 和彦
D e s i g nシンポジウム担当	松岡 由幸
I A S D R担当	古屋 繁＊ 杉山 和雄＊ 山中 敏正
日本学術会議・日本工学会担当	清水 泰博 ^(第一) 森田 昌嗣 ^(第三) 松岡 由幸 ^(横幹連合) 國澤 好衛＊ ^(日本工学会)

支部	支部長	副支部長	幹事
第1支部（北海道・東北地域）	両角 清隆	細谷 多聞	+ 柚木 泰彦 梅田 弘樹 姜 南圭 福田 大年
第2支部（関東地域）	浅沼 尚	久保 光徳	+ 北村 武士
第3支部（北陸・中部地域）	國本 桂史	黄 ロビン	+ 滝本 成人 池田 岳史 廣瀬 伸行 西尾 浩一 佐藤 省三
第4支部（近畿・中国・四国地域）	三橋 俊雄	久保 雅義	+ 益岡 了 比嘉明子
第5支部（九州・沖縄地域）	伊原 久裕	田村良一	+ 井上 貢一 本間 康夫 松本 誠一 岩田 敦之 尾方 義人

選挙管理委員会 *平成25年7月31日まで	委員長	委員
	伊豆 裕一	小野 健太 工藤 芳彰 佐々木 美貴 永見 豊

監査	
	青木 弘行 野口 尚孝

平成23年度活動報告

論文審査・論文集編集委員会

前委員長 渡邊 誠

日頃から会員の皆様には、「学会の顔」ともいえる論文集を質・量の一層の充実にご協力頂きましてまことにありがとうございます。昨年度も、多くの会員諸氏から貴重な研究成果をお寄せいただき、第58巻1号（通巻205号）から第58巻6号（通巻210号）までを刊行いたしました。多少の遅れはありましたが、比較的順調に発刊できましたことは、査読員の方々の並々ならぬご尽力の賜であると、心より感謝申し上げます。また第58巻5号より、J-STAGEを利用して論文の電子版を公開しております。

査読員の方々の献身的なご尽力なくして論文集を発刊することはできません。昨年度の投稿件数は120編で、一昨年度の投稿件数100件をさらに上回っております。査読員の方々には、これまで以上に貴重なお時間を割いて頂いている状況でございますが、なにとぞご協力下さいますようお願い申し上げます。一方で、論文集の掲載件数によって学会活動の一環が対外的に評価されることを考えますと、さらなる投稿が望まれるところです。投稿における利便性に配慮して、学会ホームページの「投稿案内」に投稿原稿フォーマットや必要書類一式を掲載させていただいておりますので、ご活用頂き積極的にご投稿下さい。最後になりましたが、委員会運営にご尽力いただきました幹事の先生方、そして、快く査読をお引き受けいただきました査読員の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

作品審査・作品集編集委員会

前委員長 須永 剛司

多くの会員のみなさまから作品集へ応募・投稿をいただき、おかげさまで

2011年度作品集第17号を発行することができました。本号は学会活動方針のもと、文字原稿の「作品論文」と合わせて投稿された作品の映像データを「作品ムービー」DVDとして添付掲載する作品集の第2号です。本号に採録できたのは17件。その内5件が作品ムービーを伴っています。

委員会活動では審査と編集プロセスの改善にさまざま試行錯誤新たな試みしました。今回の審査・編集・発行の作業をととして見いだされた課題は、その比率が減となった作品ムービー投稿数の増加を支援する施策の必要、作品論文の題目書式設定の必要などです。また、学会全体の方針として進められている、学会発行研究誌全体の新たな統一型投稿規程と執筆要領、個々の研究誌の応募・投稿、審査要領の策定は鋭意進行中です。

本17号に応募・投稿いただいた会員のみなさま、快く審査を引き受けていただいた専門審査委員の方々、ご尽力いただいた委員と幹事の先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

学会誌編集・出版委員会

前委員長 小林 昭世

平成23年度は、「デザイン学：メタデザイン学への挑戦」（18巻1号、通巻69、担当、田浦俊春、森田昌嗣、中島秀之）、「ヒューマンセンタードデザイン」（18巻2号、通巻70、担当、山崎和彦）、「エコデザイン」（18巻3号、通巻71、担当、上原勝、山崎和彦）を刊行しました。「震災とデザイン」（18巻4号、通巻72、担当、古屋繁）、「地域デザイン」（19巻1号、通巻73、担当、禹在勇、宮崎清、蓮見孝）、「デザインと色彩」（19巻2号、通巻74、担当、山本早里、小林昭世、玉垣庸一）が間もなく刊行されます。

23年度は、刊行スケジュールを予定通りにおこなうことを主要な活動目標としました。ほぼ、達成したといえます。

さらに、平成24年度から論文集が電子ジャーナルとなることを受けて、

特集号の電子ジャーナル化について検討しました。概要としては、平成25年から特集号も電子ジャーナルとなり、これまでのように、特集号が単独で刊行されるのではなく、論文集について刊行される方向で検討を進めました。詳細は、平成24年度に決まります。会報196-199を刊行しました。

また、3つの特集、「Design Thinking」（19巻3号、通巻75、担当、永井由佳里）、「タイポグラフィの史的研究」（19巻4号、通巻76、担当、タイポグラフィ研究部会）、「ファッションデザイン：世界と日本」（20巻1号、通巻77、担当、ファッションデザイン研究部会）、タイトルはいずれも仮ですが、現在、編集を依頼して準備中です。

編集委員は、車政弘、永井由佳里、小林昭世、幹事、田代祐子、佐藤浩一郎。

研究推進委員会

前委員長 古屋 繁

デザイン学研究の基幹として、会員にとって価値ある研究部会の活動のあるべき姿を各研究部会と再確認することで、会員にとってよりメリットのある学会をめざした部会活動のさらなる推進と活性化をはかることを、昨年度同様、平成23年度の目標とかけ、研究部会相互の連携のための方法や仕組みづくりなどについて考慮しながら、以下の活動をおこないました。

そのために、考えていきます。

(1) 平成23年度春季研究発表大会における研究部会活動の支援

春季研究発表大会では、平成23年度も研究部会統括セッション（略称：テーマセッション）を継続し募集した結果、6つの研究部会（創造性研究部会、情報デザイン研究部会、サービスイノベーションデザイン研究部会、デザイン理論・方法論研究部会、家具木工部会）と研究部会によらない特設セッション（防災・安全）によるテーマセッションが設けられる運びとなりました。

また、オーガナイズドセッションは、

広く研究部会や一般会員から提案された企画にもとづくセッションです。研究部会を主体とした「デザイン学の輪郭—メタデザイン—」（創造性研究部会）と一般応募の「直感的なインタフェースデザインとその評価」が理事会で採択され、実施されました。

（２）平成 23 年度春季研究発表大会におけるオーガナイズドセッションの企画実施

昨年度は、オーガナイズドセッションは学会が企画するものであるという主旨から、理事会からの提案を積極的に受けることとしました。この結果、研究推進委員会が提案した「デザインから考える—東日本大震災の現状と課題」と大学におけるデザイン教育を見つめるという観点から「デザイン教育トーク」を企画し、実施しました。

今年度も、これらの研究部会の活動内容を把握し、部会相互の連携や部会活動全体がさらに活発になるような仕掛けを各部会と協議します。

（３）研究活動の広範な推進の場としての秋季企画大会の活性化

今日的なデザインの課題をとりあげ、考える場として秋季企画大会をとらえ、企画委員会と合同で企画し、本年度は、東日本大震災を受けて、春季大会でのオーガナイズドセッションを継承する形で「デザインに何ができるか 1995.1.17 ～ 2011.3.11 ～」をテーマに実施しました。また、秋季企画大会でこれまでも実施してきた学生プロポジションも、一般枠（卒業研究や研究室のプロジェクトワークなど、あらゆるもの）と震災関連特別枠（震災に関連するもの。過去の作品も応募可）の２種の内容で実施しました。学生の交流の場として、有意義なものになったと考えています。

（４）セミナー・講演会の実施

秋季企画大会が、デザインの今日的課題に取り組み、会員の皆さんとテーマについて考えていこうとするのに対して、会員の拡大と多様な会員のニーズに答えるため、また学会として社会にデザインの新しい情報発信する場として、また、学会ならではの、学会でしかできないことを発信していきたい

と考え、感性工学会との連携（共催）で、以下の通りのセミナーを企画・開催しました。

2012 年 2 月 22 日（水）16 時から 19 時 30 分まで、芝浦工業大学・田町キャンパスの 802 教室（8 階）で、デザインセミナー（主催：日本デザイン学会、共催：日本感性工学会）「イチから考えるサービスデザイン— サービスデザインのための科学的アプローチと理論基盤 —」を開催しました。

特に、会員だけでなく、サービスに関わっている社会人に数多く参加してもらえるよう

１）平日（定時日の多い水曜日）の夕方、足の便の良い場所（芝浦工業大学・田町キャンパス（JR 田町駅芝浦口から徒歩 3 分）で開催する。

２）セミナー終了後には、名刺交換の場となる懇親会をもうける。

３）参加費を高からず安からずの設定（3,000 円）とする。

などの工夫をしました。

結果、参加者は、総数で 67 名、内訳は、有料（3,000 円（懇親会費を含む））が 47 名（事前登録 35、当日 12）、学生（無料、お手伝いあり）20 名でした。日本感性工学会との共催ということで、参加者のうち、日本デザイン学会が 12 名、日本感性工学会が 8 名、その他 27 名でした。その他のなかには、電子情報技術産業協会（JEITA）関係の方が含まれていると考えられる。

講演スケジュールと内容、講師は、以下の通りです。

16 時から、開会の挨拶：企画担当者からセミナーの趣旨を研究推進委員会委員長の古屋から説明しました。

その後、講演 1「サービスの原点から考え直す — サービス工学序説」と題して、独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター長の吉川弘之氏にご講演をいただいた。今回は、先生の提唱される「プリミティブサービスを増幅することでサービスをデザインする」基本的なお考えを講演していただいた。

休憩のあと、吉川氏の講演に関連し、講演 2「サービスデザインの新たな視

界」と題して、芝浦工業大学の杉山和雄氏と東芝デザインセンターの広木慎一氏に、サービスデザインの事例を紹介いただいた。

このセミナーは、研究推進委員会の本年度事業計画にあった懸案事項（本年度予算にセミナー助成金が計上されています）の一つであり、日本感性工学会との共催にすることで、参加者のなかには、デザイン学会とは質の異なる所属の方々も多数おられ、時期と広報期間を考慮すれば、概ね好評で成功であった。

企画委員会 総合企画

前委員長 尾登 誠一

東日本大震災後のさまざまな状況変化を直視し、デザインの地平を探りつつ、学会活動の新局面を模索した。

また、継続中の学生入会金・年会費減免キャンペーンを精査し、学生会員制度導入を指標とする改定案を起草し、若手会員勧誘の基礎固めをした。合わせて、学会の活性化と拡張に向け、以下の 3 つを活動を展開した。

１．拡大するデザイン領域を横断的に貫く連繋のありようを引き続き探検しつつ、重ねて社会連繋や地域連携のありようを計画立案し時代的要請に応えるべく活動した。特に春季大会オーガナイズドセッションを受けての秋季大会は、東日本大震災をテーマとして設定、基調講演 2 本とパネルディスカッション、及び学生と一般の共同参加によるプロポジション展示を行った。

２．前述した指針に添い、学会内外の要請に呼応する魅力的なテーマの設定による大会を実施する。

□平成 23 年度春季研究発表大会

会期：平成 23 年 6 月 24 日（金）～ 26 日（日）

会場：千葉工業大学

テーマ：「産学コラボレーションによるデザイン」

・特別講演「未来のためのデザイン」

・オーガナイズドセッション

１．「デザインから考える—東日本大地震の現状と課題」

- 2.「直感的なインターフェースデザインとその評価」
- 3.「デザイン教育トーク」
- 4.「デザイン学の輪郭—メタデザイン学」

- ・特別セッション
- ・講習会
- ・口頭研究発表
- ・ポスターセッション

□平成23年度秋季企画大会

会期：平成23年11月12日（土）

会場：東京大学

テーマ：「デザインに何ができるか
1995.1.17～2011.3.11～」

- ・基調講演「震災後の工学は何をめざすのか」
- ・基調講演「震災におけるデザインの役割とユニバーサルなソリューション」
- ・学生プロポジション+震災プロポジション
- ・パネルディスカッション「デザインに何ができるか」

3. 学生キャンペーンの成果の検証、および「学生会員制度」の導入に向けた会則見直し案を起草した。

企画委員会 支部企画

前委員長 青木 幹太

本委員会では、平成22-23年度の日本デザイン学会基本施策である「支部活動活性化策」のさらなる推進に沿って、第1支部から第5支部の支部長および学会員の皆様を中心に、各支部に共通する活動や支部独自の活動が実施、展開されています。第1支部では、東日本大震災の影響もあって開催が危ぶまれたようですが、「豊かさのデザイン」をテーマに第4回支部大会が開催されています。この大会ではインタラクティブセッション、基調講演「安心の設計」および3つの話題提供を基にしたワークショップが実施され、北海道、東北地区より約40名が参加し、親密な研究交流の場になったようです。第2支部では、もうひとつの住まい方推進協議会と合同で「自由と生存の家」の見学会、日本デザイン

学会秋季大会の際のカフェサロン（懇親会）の担当、都市問題をテーマにしたフォーラムの開催など、広範囲の地域の中で多様な活動が展開されています。第3支部では、デザインカフェ事業（サイエンスデザインカフェ）や第3支部研究発表会・懇親会の開催のほか、会員間の情報交流を目的にWebサイトの充実、メーリングリスト事業の推進に取り組まれています。第4支部では地域生活文化研究会の一環として、「地域のために汗し、地域の自然を体感する自然共生演習」をテーマに、高大連携、地域連携による学外演習を、また第4支部研究発表会が実施されています。第5支部では、春季に九州地区の六大学の卒業・修了作品を一同に展示する「九州デザイン六大学展」を、秋季に「研究発表会・懇親会」を毎年、継続的に実施し、「九州デザイン六大学展」は平成24年より参加大学が増えることから、「九州デザイン展」（仮称）に名称を変更して実施される予定です。

以上のように平成22-23年度の支部企画では、研究発表会・懇親会が定着するとともに、各支部の状況に応じた独自の活動が展開されていることから、日本デザイン学会の基本施策に沿った取組みが進められたことをご報告致します。

教育・資格委員会

前委員長 蓮見 孝

平成23年度も、引き続き本委員会の主要課題である「教育」と「資格」について活動を進めました。第1の課題は、しっかりとした継続的技術者教育（CPD=Continuous Professional Development）のしくみをデザイン学領域に導入することです。これについては、社団法人日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）が平成22年9月に開始したプロダクトデザイン（PD）検定2級、そして平成23年10月に開始した1級の企画検討に参画し、学会活動の成果が得点として記録・評価される「ポイント制度」の導

入を提案するとともに、学位取得や研究・教育職をめざす人のための「研究ロードマップ」等の考え方について情報提供しました。しかし日本デザイン学会員の研究領域はプロダクトデザインに限らず、建築や環境デザイン、グラフィックやサインデザインなど多岐にわたります。すでに個々にCPD制度の運用をおこなっている学協会とも連携を密にしながら、一層の推進を図ることが今後の大きな課題です。

また、一昨年に産業技術大学院大学が文部科学省から委託されておこなった実践型人材育成プログラムに引き続き、平成23年度も公益財団法人日本デザイン振興会（JDP）が東京都から委託されて実施した「東京都実践デザイナー育成講座／デザイン・ツールズ」に、6名の学会員を講師として派遣しました。

教育機関の質の保証が国際的にも問われる今日、公的機関による教育機関の品質認証（アクレディテーション）を進める活動も求められます。すでに認証評価が確立している工学領域において技術者教育認定に長い歴史を有する日本技術者教育認定機構（JABEE）の活動に引き続き参画し、デザイン領域におけるアクレディテーション導入の可能性について情報収集をおこないました。具体的には、JABEEが文部科学省から認証を受けておこなう産業技術系専門職大学院の認証評価委員会に委員を派遣し、その認証業務に関わり経験を蓄積しました。

第2の課題は、資格制度の確立です。建築・環境デザイン領域では、すでに国家資格制度が確立され、さらに国際建築家連合基準に準拠した登録建築家という資格も制度化されていますが、それ以外のデザイン領域では、制度化への検討がほとんど進められていない状況にあり、本委員会では平成23年度も具体的な検討を前進させることはできませんでした。まずは継続教育を着実におこないながら、資格制度のあり方についても関連学協会やデザイン団体と連携をとりながら、具体化に向けた歩みを進めて行く必要があります。

広報委員会

前委員長 山中 敏正

年度当初の計画に即して、以下の活動を行った。

1. 情報コンテンツの適切な活用による学会員サービスの向上

国立情報学研究所の電子図書館サービス CiNii において、本学会誌の創刊号からの電子化が完了し、創刊号から第 58 巻 4 号までの全ての学会誌がオンラインで講読できるようになった(CiNii 会員および、機関定額制を利用されている組織所属の方は自由に利用可能)。

2. オンラインジャーナル化の開始

J-Stage のシステムを利用して、本学会誌「デザイン学研究」のオンラインジャーナル化にこぎ着け、58 巻 5 号から、オンラインジャーナルとして利用可能となっている。さらに、作品集の電子化の条件となっている、投稿規定の整備を推進した。

また、J-Stage のシステムが 2012 年春に J-Stage 3 に更新されるのに合わせて、論文投稿査読システムの電子化の申請の準備を行った。

3. 研究発表大会の投稿、参加登録システムの更新

第 59 回大会における研究発表大会の投稿受付・参加登録システムを、(株)アトラスのシステムを利用することとし、その契約ならびに設計を、梗概集編集委員会と協力して実行した。

4. 著作権規定の見直しと効率的運用の検討

これまで個別に対応されてきた、論文集、作品集、特集号の著作権規定にかかわる、「投稿規定」と「執筆要領」の整理統合を行い、ドラフトを作成したが、法的観点からの整備などの確認が未了であり、時期理事会で確実に整備して頂きたいと考える。

5. www のコンテンツの維持管理

www による適切な情報提供を推進した。

財務委員会

前委員長 野口 尚孝

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に以下の二つの問題に絞って活動して参りました。

(1) 学会の次世代を担う若手会員の確保と研究活動を支援するために学生会員制度を設ける。

(2) 学会財務で最大の支出である研究誌等の出版物の発行と郵送費を節約するためにそれらの電子化を急ぐ。

(1) に関しては、企画委員会のご協力のもと、2 年間の期限付き学生キャンペーン(入会金免除・会費減免)を実施し、その結果を精査・評価した上で、学会財務上、大きな支障がないとの予測が立てられ、昨年の総会に学生会員制度を組み入れた会則の改定案を提出し、成立させることができました。(2) に関しましては、広報委員会の全面のご努力により、来年度中に学会誌電子化に伴う著作権の問題を含む投稿規定の改定を行い、概要集、そして研究誌の電子化が実施される見通しとなりました。

これらの結果、どのように学会の財務内容が変化するかは、今少し様子を見ないと結論はだせませんが、この段階での所期の目的はおおむね達成できたと考えられます。

今後は、学生会員から正会員へのスムーズな移行など、学界全体としての会員数の減少を防ぐ手立てを積極的に打ち出し、それとともに学会の法人化を視野に入れ、収支バランスの良い財務を維持していく必要があると思われます。

市販図書企画・編集委員会

前委員長 宮崎 清

平成 23 年度活動について、以下の点をご報告いたします。

『デザインのあゆみ事典』(仮称)に関する原稿の整理を終え、CD 版としての項目リスト、目次、年表作成作業を昨年度に引き続き進めましたが、残

念ながら CD 最終版完成には至りませんでした。平成 24 年度には完成させ、希望者に配布する予定です。

平成 23 年度 春季研究発表大会実行委員会

実行委員長 上原 勝

日本デザイン学会第 58 回春季研究発表大会は平成 23 年 6 月 24 日(金)から 26 日(日)までの 3 日間、千葉県習志野市の千葉工業大学において、「産学コラボレーションによるデザイン」をテーマに開催されました。



会場受付風景

第 1 日目は、総会およびデザイナー喜多俊之氏による「未来のためのデザイン」というテーマの特別講演が行われました。また、特別セッションとして「乗り物の未来とデザイン」、「家電・情報の未来とデザイン」の二つのセッションが実施され、自動車と家電という、日本経済の牽引役であった産業分野におけるデザインの現状や今後の展望が話し合われました。さらに、講習会としてインフォグラフィックスとエコデザインに関する実践的な講習会が実施されました。また特別セッション終了後には「デザイナーズミーティング」として、参加したプロのデザイナー、デザイン関係者や学生が交流する場を設けました。

第 2 日目および 3 日目は研究発表(口頭発表・ポスター発表)、学生交流セッションの他に、4 つのテーマのオーガナイズドセッション、2 種類の産学セッションなど多くの企画が実施され、盛況のうちに終了しました。オーガナイズドセッションのテーマの 1 つ

は「デザインから考える－東日本大震災の現状と課題－」で、大会の3ヶ月前に起きた、日本の歴史上まれに見る大災害を取り上げ、この問題についてデザインの立場で何ができるのかと考える、真剣で意義深いセッションとなりました。他にも「直感的なインタフェースデザインとその評価」、「デザイン教育トーク」、「デザイン学の輪郭－メタデザイン」の各テーマでセッションが設けられ、いずれも活発な議論が交わされました。産学セッションでは「WebとUXデザイン」、「これからのデザインスキルと産学連携の可能性」の二つのセッションが開催されました。どちらのセッションでも、産業界と教育研究機関が連携して今日の重要なデザイン課題に対処することの重要性が熱心に語られていました。学生交流セッションは「未来のためのワークショップ」、「楽しさのミナモト」交流ワークショップ」の2種類のワークショップが企画され、定員を上回る多くの学生の参加により、積極的な活動とユニークな提案が見られました。2日目終了後の懇親会では、大会長として小原二郎先生にご参加、ご挨拶いただき、多くの学会員の交流の場となりました。



オーガナイズドセッション風景

研究発表では、通常の発表分野の他にテーマセッションとして、情報デザイン研究部会による「情報デザインのプロセスと手法」をはじめとする4つのテーマセッション、デザイン理論・方法論研究部会による「デザイン科学の枠組みとタイムアクシス・デザイン」をはじめとする4つのテーマセッション、創造性研究部会による「デザイン思考とデザイン力」、家具木工部会に

よる「伝統的資源と現在学」、サービスイノベーションデザイン研究部会による「サービスイノベーションデザイン」、研究推進委員会の提案による「防災・安全」の各テーマセッションが設けられ、いずれも質の高い発表と質疑が行われました。

本大会における研究発表の件数は219件、大会参加者数は590名で、発表件数、参加者とも前年度を上回る数字となりました。以上のように、第58回春季研究発表大会は無事に全てのプログラムを計画通り遂行し、成功のうちに終了することができました。最後に、大会に参加、発表された全ての皆様、出展していただいた企業の方々、また大会の準備と運会にご協力いただいた方々、青木会長はじめ学会理事と本部事務局の方々に、実行委員会として御礼申し上げます。

平成23年度 秋季企画大会実行委員会

実行委員長 村上 存

2011年11月12日(土) 10:00～17:00に東京大学工学部2号館2階221講義室、中庭フォーラムにおいて、平成23年度日本デザイン学会秋季企画大会が、「デザインに何ができるか 1995.1.17～2011.3.11～」をテーマに開催されました。

青木弘行 会長(千葉大学)の開会挨拶の後、國澤好衛 本部事務局長(産業技術大学院大学)の司会により学会各賞授賞式が行われました。松岡由幸 担当理事(慶應義塾大学)により選考経緯が説明され、寺光男氏、佐渡山安彦氏、日原もとこ氏、宮崎紀郎氏に功労賞が授与されました。



名誉会員受賞式風景

開会式に続き、午前の部として村上存 大会実行委員長(東京大学)の司会により2件の基調講演が行われました。原田昇氏(東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 教授・研究科長特別補佐)による基調講演「震災後の工学は何をめざすのか」では、今回の震災を受けて東京大学大学院工学系研究科がまとめた緊急工学ビジョンを中心とした内容が紹介されました。Patricia Moore 氏(Moore Design Associates 代表、アリゾナ州立大学教授)による基調講演「震災におけるデザインの役割とユニバーサルなソリューション」では、人類はその歴史において何度も大きな災害を経験しそこから立ち直ってきたこと、米国におけるハリケーンの被害者に対する企業の取り組み事例等が紹介されました。



基調講演風景

昼休みには中庭フォーラムにおいて、29件の学生プロポジション／震災プロポジション展示が行われました。



学生プロポジション風景

午後の部では、尾登誠一氏（東京藝術大学、日本デザイン学会副会長）の司会により、パネルディスカッション「デザインに何ができるか」が行われました。まずパネリスト各氏の紹介を兼ね、伊藤真市氏（宮城大学 事業構想学部 デザイン情報学科）による「被災地の現状」、中川聡氏（東京大学 大学院工学系研究科 特任教授）による「震災と

ユニバーサルデザイン」、堀江政広氏（東北工業大学 ライフデザイン学部）、山崎真湖人氏（アドビシステムズ株式会社）による「震災と情報デザイン」、長谷高史氏（愛知県立芸術大学 美術学部）による「震災と環境・生活デザイン」、村上存（東京大学 大学院工学系研究科）による「震災とデザインの新領域」の話題提供が行われ、それを受けて会場も含めた討論、意見交換が行われました。



パネルディスカッション風景

最後に、日本デザイン学会第2支部主催の懇親会カフェサロンが行われ、講演者、参加者の懇親を深めるとともに、学生プロポジションの優秀作品の表彰が行われました。

大会にご参加いただいた約100名の講演者、聴講者の皆様に感謝いたします。

学会各賞選考委員会

前委員長 宮崎 清

本年度学会各賞に関する選考に関し、ご報告いたします。

I 経過

①本委員会委員に昨年度刊行の学会誌一式を事務局より送付し、本委員会委員として推薦すべき候補があれば、事由を添えて本委員会委員長に連絡するよう依頼した。

② 会員、論文審査委員会委員、作品審査委員会から、本委員会に下記の推薦が寄せられた。

- ・ 功労賞候補 6件
- ・ 年間優秀論文賞候補 3件
- ・ 年間作品賞候補 5件

③上記候補の個々につき2名の査読審査委員を本選考委員会委員のなかから選考し、事由を付した選考結果を、書面にて本委員会委員長に提出するよう依頼した。

④委員長は寄せられた選考事由書一覧を作成・配布するとともに、個々の件に査読・審査委員のすべてが合と判断したものを本委員会による最終選考とすることを諮り、委員全員の了承を得た。

II 結果

- ・ 年間優秀論文賞 なし
- ・ 年間作品賞 なし
- ・ 功労賞

寺光男（理事6年）

佐渡山安彦（理事6年、特設理事1年）

日原もとこ（理事8年）

宮崎紀郎（理事10年、監査2年
事務局担当理事2年）

いずれも1940年以前生まれ

以上

平成22年9月27日
平成22年度学会各賞選考委員会
委員長 宮崎 清
委員 青木弘行
庄子晃子
杉山和雄
鈴木 邁
須永剛司
原田 昭
松岡由幸
宮内 愼
森 典彦

Design シンポジウム担当

前担当理事 松岡由幸

Design シンポジウムは、日本のデザイン・設計に関する学会の共催により、2年に一度開催されています。現在は、当学会に加え、日本建築学会、日本機械学会、日本設計工学会、精密工学会、人工知能学会の6学会が共同で運用しています。

平成23年度は、24年10月に日本建築学会が幹事学会として行うシンポジウムに向けた準備の年度でした。

そのような活動のなかで、日本認知科学学会が運営会議に参画（現時点、共催ではない）するなど、デザイン領域に関心を示す他学会の新たな動向も見受けられました。このような背景からしても、本学会はさらなる研究を推進し、この領域を先導していく重要性を改めて感ずる年度でもありました。

IASDR担当

前担当理事 杉山 和雄

2011年は、IASDRの2013年大会を日本で開催するための準備を行った。東日本大震災を受けたことから、電力供給の安定確保など懸案もあり各方面から心配をしていただいたが、2013年開催は問題なしと考え、10月にデルフト工科大学において開催されたIASDR2011において、杉山、山中の担当委員が出席し、Gara Dinnerおよび閉会式において、2013の案内をアナウンスした。

その後、12月には「第5回国際デザイン学会連合国際会議 組織・運営委員会」を開催し、実行体制の整備をはじめた。2月に開催した、第2回の組織・運営委員会において、大会運営の支援体制を決め、広報体制に注力することを決定した。

また、IASDRはその設立から会長任期3年、理事の任期2年としており、会長の再選を2回までとしていたため、初代会長のNigel Cross氏の

任期満了を迎えた。10月のデルフト大会の際に行った理事会で選挙を実施し、新会長としてKun-Pyo Lee氏を選出した。また、副会長として、Lin-Lin Chen氏、事務局長として、David Durling氏を選出し、2011年度からの体制が決定し、この体制で、2013年の東京大会を運営することとなった。

なお、デルフトで開催した理事会では、会費徴収についても協議した。すでに相当額の会費を徴収しているが具体的な事業計画を策定することを優先事項として、この計画を評価するまで新たな会費の徴収を行わないこととした。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学

前担当理事 黒川 威人 清水 泰博

日本学術会議第1部傘下の芸術学関連学会連合（日本デザイン学会を含む15学会により構成）による第6回公開シンポジウムは、ここ数年にわたる当学会からのアピールが功を奏し、昨年初めてデザインをテーマとして開催することが出来た。地方開催の年に当たったため、会場は関西となったが、このためラッキーなことに、リニューアル落成したばかりの大阪大学会館講堂のこけら落としとしての催事となった。

なお、開催に当たり、今回初めて意匠学会と当学会が連携して趣旨書作成からパネリスト選定及びポスター・チラシ・当日配布冊子のデザイン、印刷などに当たったことを特記しておきたい。

テーマ：アートとデザイン ― その分離と融合 ―

□開会挨拶

西村清和（東京大学：芸術学関連学会連合会長）

片山 剛（大阪大学大学院文学研究科：共催者代表）

シンポジウム趣旨：黒川威人・藤田治

彦

□ゲスト・パネリスト

黒川雅之（黒川雅之建築設計事務所）
報告「デザインとは何か - そのありようを問う」

□パネリスト

竹内有子（大阪大学：意匠学会・美術史学会推薦）

報告「19世紀イギリスに見るアートとデザイン―官立デザイン学校（王立美術大学）を中心に―」

森 仁史（金沢美術工芸大学：美術史学会・意匠学会推薦）

報告「アートとデザイン―日本の場合―」

竹原あき子（和光大学：日本デザイン学会）

報告「デザインの現在 - 日本デザイン力は取り戻せるか」

□ディスカッション 司会・コーディネーター

黒川威人（日本デザイン学会）・ 藤田治彦（大阪大学：意匠学会）

主催：芸術学関連学会連合

日本学術会議哲学委員会・芸術と文化環境分科会

共催：大阪大学大学院文学研究科

科研基盤研究（A）「アーツ・アンド・クラフツと民藝」

併催行事：大阪大学創立80周年記念
展覧学会 [阪大生・手塚治虫 - 医師か？マンガ家か？ -]

日本学術会議

第三部／理学・工学

前担当理事 蓮見 孝

日本デザイン学会は、日本学術会議に置かれた3つの部の内、第三部（理学・工学）に所属していますが、活動母体となるデザイン関連の委員会／分科会がなくなったこともあり、特筆すべき活動はおこなえませんでした。

横断型基幹科学技術 研究団体連合

前担当理事 松岡 由幸

元来、デザイン学は、横断型基幹科学技術の根幹をなす学術領域であり、当学会は、横幹連合における学術上での牽引的立場にあるべきと考えます。この視点に立脚し、昨年度は、横幹連合における当学会の存在感を高めるべく、以下のことを実施しました。

まず、東日本の大震災を受け、4月25日に行われた横幹連合の緊急シンポジウム「強靱な社会インフラの再構築に向けて科学技術は何をなすべきか」に参加するとともに、その事前アンケートの回答を通じて、当学会におけるこれまでの安心・安全に関する活動の一部を紹介しました。

次に、第4回横幹連合コンファレンス（11月28-29日、北陸先端科学技術大学院大学にて）において、企画セッション「タイムアクシス・デザインの時代」を企画・実施し、青木会長以下7名が講演を行いました。なお、この企画セッションのテーマは、今年度4月に発行された雑誌「横幹」の特集号になるとともに、IASDR2013において、学術会議・横幹連合との共催シンポジウムに繋がっています。

日本工学会

前担当理事 國澤 好衛

社団法人日本工学会は、明治12年（1879年）に設立された工学系の学協会の連合組織であり、会員は100を超える理工系学協会で構成されています。現在は、公益法人制度改革に伴う新公益法人へのスムーズな移行に向けて、学協会連合としての総意を内閣府などへ要望として提出する、あるいは認定に向けた準備作業としての情報収集などを行っています。

本年度は、移行期間（平成25年まで）もあまり残されていないこともあり、他学会の方針もようやく定まって

まいりました。今後も継続して他学会の動向を鑑み、日本デザイン学会として最も相応しいあり方を考えていきたいと思っています。

本部事務局

前本部事務局長 國澤 好衛

平成23年度末の会員数は、正会員16,08人、学生会員174人、賛助会員31件（昨年度25件）、年間購読会員59件（昨年度54件）です。正会員と学生数を合わせた数は1,782人で、昨年度の1,747人と比較して増加はしているものの、学生会員のうち、平成24年度の継続手続きを行なった学生会員の数は比較的少なく、入会員数は増えたものの、今後は、学生会員を継続し、正会員へ移行して頂けるよう、様々な魅力・工夫が必要だと考えています。

また法人化につきましたは、他学会の動向など勘案しながら、学会のあるべき姿を模索して参りたいと思います。それに向けて、本年度は、経理処理、会則の修正等、少しづつではありますが、整備してまいりました。

懸案事項であります名簿出版に関しては、次期事務局に引き継ぎ、早急に発行頂くようお願いいたします。

第1支部

前支部長 梨原 宏

第一支部では2年に1回、支部大会を開催し、距離的に離れている会員同士の連携を深め情報を分かち合う活動を進めて来た。それを踏まえ、本年度、11月19日（土）、札幌市立大学サテライトキャンパスを会場に、第4回支部大会を開催した。東日本大震災の影響を受け、大会開催は危ぶまれたが、11月に開催することができた。被災された支部会員も居られる中、第1支部の「今」を皆で考える機会とする方針から、大会テーマを「豊かさのデザイン」とした。このテーマに基づき、午前中にインタラクティブセッション、午後に基調講演「安心の

設計」、また3つの話題提供を元にワークショップを実施した。北海道地区、東北地区から約40名の参加があり、小さいながらも親密な研究交流の場となった。デザインを巡る環境が大きく動いた本年、支部会員の貴重な経験を交え、「豊かさ」をキーワードに交流できたことは、大変有意義であった。

距離的な問題や開催内容によって、支部大会に参加ができない会員が多数おられることも確かである。本大会とは別に、時間的、距離的に集まりやすい大学間相互で、研究会、セミナー、作品展示会を開くなどを行い、関係を強化することは極めて大切である。しかし、東日本大震災の影響を受けた東北地区の大学をはじめとして、それぞれの大学の置かれた状況から、その実現が出来なかった。来年度の継続課題としたい。

第2支部

前支部長 佐々木 美貴

平成23年度第2支部活動は、昨年度に引き続き、首都圏におけるデザインの問題として、多様で密な人口構成の住まい方をキーワードに会員相互のつながりを創り出す事を目指して、環境造形デザイン部会と筑波大、もうひとつの住まい方推進協議会の協力のもと、活動を行いました。

1回目に、2011年6月13日「自由と生存の家」見学会を行いました。

2008年年末から正月にかけてのニュースとして衝撃的な話題の「年越し派遣村」。生活保護の支給を受けるにも、住まいが確保されていないと対象にならない。そんな社会のひずみへの取り組みを行っている、フリーター全般労組による「自由と生存の家」を、もう一つの住まい方推進協議会、日本デザイン学会第2支部合同の見学会を開催しました。東京の新宿区にある四谷3丁目の駅から、徒歩3分の好立地に、2棟のアパート、計16室を持ち、そのうちの8室は、1階の4室を8室にボランティア等で改修して、小さいながらも個室にてプライベートを保つ

空間として作り直しました。見学会には、両団体から 20 名の方の参加を頂き、アパートの見学会の後、近隣貸し会議室で、これまでの経緯から、運営状況等を聞き、会場からは、見学会に参加された感想から、今後 協力の申し出までと、様々なディスカッション、交流が行われました。デザイン学会参加者から、都市の社会問題を考えることで、身近かなまちづくりにつながると発言頂き、この見学会開催の意義を感じられました。



自由と生存の家見学会

2 回目に 2011 年度日本デザイン学会の秋季企画大会が 11 月 12 日に本郷にある東京大学工学部 2 号館で行われ、そのカフェサロン（懇親会）を第 2 支部が担当しました。大会のパネルディスカッション「デザインに何ができるか」に登壇された、司会の尾登誠一氏（東京芸大）パネリストの伊藤真市氏（宮城大）、中川聡氏（東京大学）、堀江政広氏（東北工業大学）、山崎真湖氏（アドビ）、長谷高史氏（愛知芸大）、村上存氏（東京大学）にテーブルごとの話題提供者になって頂き、総勢 55 名の参加者が 3 階会議室に集い活発な意見交換の場となりました。初めに話題提供として、認定 NPO 法人まちぼつとの奥田裕之氏に東京と被災地を結ぶ復興住宅活動と新しい市民ファンド「ソーシャルジャスティス基金」のお話でカフェサロンの口火を切って頂きました。また最後には、昨年同様学生プロポジション展示の特別賞の表彰を行い、参加頂いた学生の皆さんにも学業の励みとなったようです。パネラーの方たちとの語らいで、参加者・学生たちの各人の考えや、活動を更に知ることもできました。



カフェサロン風景



カフェサロン 学生受賞

3 回目に今年度の第 2 支部の活動は、都市の問題をテーマに取り上げ、その関連フォーラムとして、もうひとつの住まい方推進協議会主催の【テーマ】どうするサービスつき高齢者住宅—改正高齢者住まい法を問う—2011 年 11 月 27 日（日）（13:00～17:00）芝浦工業大学 芝浦キャンパス 802 教室（後援 日本デザイン学会）のご案内を第 2 支部ならびに日本デザイン学会の会員にご紹介させていただきました。

高齢化率が 23% に達し、世界に類を見ない超高齢社会を迎えている日本社会。今後、介護を必要とする高齢者が加速的に増えていくことになりますが、現状でも高齢期のサービスと一体となった住まいは絶対的に不足し、住まいやサービスの質の面でも多くの問題を抱えています。その中で今年 4 月、高齢者住まい法が改正され、新たにサービス付き高齢者向け住宅制度が導入されました（10 月 20 日施行）。改正法は、高齢者の住まいが直面している課題に答えられるのかを、このフォーラムでは議論をしました。



どうするサービスつき高齢者住宅 会場



どうするサービスつき
高齢者住宅シンポジウム

基調講演を「これからの高齢者住宅の可能性」と題して、園田真理子氏（明治大学理工学部建築学科教授）にご講演頂き、自治体の立場から、「法改正と東京都の対応」を佐藤章氏（東京都住宅政策推進部企画調整担当課長）にご報告頂き、その後 3 つの事例報告 1 生活科学運営の考える地域包括ケア（浦田慶信氏・生活科学運営代表取締役）2 プエルト横浜（中村久子氏・NPO 法人 W.Co たすけあいぐっぴい元理事長）3 大阪・NPO 友-友の家（小林房子氏 代表理事）にお話しを頂きました。次に、田村明孝氏（タムラプランニング&オペレーティング代表）に問題提議をして頂いた後、登壇者全員で、ディスカッションを行い、各人の老後感、必要な生活レベルから、どんな「最期」を迎えるのかの話まで至りました。会場にはデザイン学会の参加者も含め 160 名の参加者.NHK の取材、新聞記者の方の来場もあり、世論の注目の話題でありなお且、高齢化の深刻な状況を危惧している社会状況を反映しているようでした。フォーラムでは、現状の施設のどの部分に不足があるのか考えながら、「サービス付き

高齢者向け住宅」が制度のすげ替えだけに終わらず、市民自らがサービスをどのように捉え、地域から高齢者社会を支えていかななくてはならないとの意見交換がなされました。

3回の活動にたくさんのご参加を頂きありがとうございました。第2支部は、関東地区と参加人数が多く、広範囲の地域を担当しております。このような、見学会、懇親会、フォーラムを担当できることは第2支部の交流としても大変有効と考えております。

22年度、23年度と2年間にわたる第2支部活動に、みなさまの御協力を頂きありがとうございました。社会問題との接点を持つ事が出来たこの2年間の活動は、今後の日本デザイン学会における視野を更に広げ、将来の活動の布石に繋がればと思っております。

第3支部

前支部長 佐々木 尚孝

第3支部では、平成23年度において支部活動の活性化を目標として以下の事業を実施した。

1. デザインカフェ事業（サイエンスデザインカフェ）

テーマ：「テクノスケープ 駅と空港のデザイン」

講師：片木 篤（名古屋大学環境学研究科都市環境学専攻建築学系教授）

日時：平成23年6月11日（土）18:00～20:30

場所：らくだ書店2階カフェスペース（名古屋市千種区）

参加：35名

内容：多くの人にデザインへの興味・関心を持ってもらうため、意匠建築分野教授の片木先生に駅と空港のデザイン史を写真スライドとともに話していただいた。

担当幹事：國本桂史（名古屋市立大学）



図1：デザインカフェ案内パンフレットと会場風景

2. 第3支部研究発表会・懇親会

目的：会員のデザイン活動や研究を相互に知り合い、懇親会を通してより深い相互交流を図るとともに、学会発表の練習機会とすることを目的として今年度も実施した。

日時：平成24年3月18日（日）

口頭発表 午前の部 11:00～12:10

口頭発表 午後の部 13:10～14:30

ポスター発表：懇親会 15:00～17:00

会場：椋山女学園大学（名古屋市千種区）

参加：43名（会員14、非会員5、学生24）

発表22件：口頭13、ポスター9

内容：口頭発表を2会場に分けて実施し、ポスター発表については懇親会を兼ねてこれまでより長い時間を設定した。また、口頭発表が2会場でかつ持ち時間が20分のため、発表時に十分な討議ができない点は懇親会で補うよう設定したが、多数の学生参加もあって活発な交流が実施された。

なお、発表内容は「日本デザイン学会第3支部研究発表概要集」を作成し掲載した。

担当幹事：滝本成人（椋山女学園大学）

担当幹事：池田岳史（福井工業大学）



図2：ポスター発表風景



図3：懇親会風景

3. 会員間の情報交流の充実事業

Webサイトとメーリングリストの充実を目標として、メーリングリストやメールマガジンサービスを持ち、かつ安価なレンタルサーバー会社への変更を行い、下記の整備を実施した。次年度は、活用へと向かいたい。

◎ドメイン管理会社の移動

「日本デザイン学会第3支部」として登録した汎用JPドメイン『jssd3b.jp』については、サーバー会社の変更に伴い管理会社も変更を行った。

◎メーリングリスト事業

メール投稿のしやすさ、スパムやウィルスフィルターによる受信拒否を防ぐため、メーリングリストサーバーの変更を検討し、様々なテストを経て平成24年3月にメーリングリストの整備が完了した。

◎Webサイトの移動

新規レンタルサーバーへの移動試験後、ドメイン移動に伴い新規サーバーでの運用を平成24年2月から開始した。

担当幹事：廣瀬伸行（愛知産業大学）

第4支部

前支部長 三橋 俊雄

1) 地域生活文化研究会の一環として、学外演習を、平成23年8月30日（火）～9月1日（木）に、京都府宮津市由良地区において実施した。テーマは「地域のために汗し、地域の自然を体感する自然共生演習」とし、参加者は、京都府立大学（三橋+23名）、滋賀県立大学（面矢+3名）、宮津高校（教員2+7名）を含む計39名であった。演習では、もみじ公園の整備、由良小学生を対象とした植物標本づくり、田舟遊びなどを実施した。「自然共生教

育」を基本姿勢として、高大連携、地域連携による生活文化体験学習を行うことができた。

2) 日本デザイン学会第4支部研究発表会を、平成23年12月10日(土)、岡山県立大学にて開催し、以下の口頭発表と研究交流が行われた。当日の発表などのスケジュールは下記の通りで、口答発表21件、対話発表8件の発表が行われた。

1、開会挨拶 9:30 (三橋俊雄支部長)
2、口頭発表 9:35 ~ 10:50 @ 3312 教室 (司会: 谷本尚子)

01: 尾崎洋「岡山県立大学情報デザインコースによる生涯学習事業」(岡山県立大学デザイン学部)

02: 貞島庸佑「情報デザインコースの社会貢献活動の取り組み 井山宝福寺との共同活動」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科情報デザイン学専攻)

03: 鳥居秀作「マルチタッチディスプレイを用いた音響機器のインタフェースデザイン」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)

04: 光森雅明「LEDによるインタラクティブな表現の調査と制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)

05: 井口裕子「織テクスチャーを活かした吸音効果のあるインテリアテキスタイルの提案」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科造形デザイン学専攻)



口頭発表風景

3、口頭発表 11:00 ~ 12:00@3312 教室 (司会: 益岡 了)

06: 荘 心宜「日本時代の北客家庄における食文化」(京都府立大学大学院)

07: 陳 譽云「台湾・南投県竹山地域における竹と生活文化・生活技術」(京都府立大学大学院)

08: 佐々井俊文「京都府宮津市由良地区における自然共生的かつ自立自存の生き方」(京都府立大学大学院)

09: 袁 藝文「中国における高齢者のタウンモビリティ電動車の利用実態調査から」(京都府立大学大学院)

4、対話発表 12:30 ~ 13:30@3311 教室

P01: 矢浦有理江「色覚特性による見えの違いを活かした環境グラフィックス」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科造形デザイン学専攻)

P02: 朴 貞淑「地域に密着した共生型住環境構築に関する研究」(岡山県立大学デザイン学部)

P03: 貞島庸佑「映像のための身体的インタフェースのデザイン」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科情報デザイン学専攻)

P04: 鳥居秀作「マルチタッチディスプレイを用いたGUIプロトタイプ制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)

P05: 光森 雅明「インタラクションのあるLED立体表現デバイスの制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)

P06: 神原啓太「EPUBでのマニュアルデザインの調査・研究と制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)

P07: 尾崎洋「岡山県立大学情報デザインコースのワークショップ活動」(岡山県立大学デザイン学部)

P08: 三原鉄平「竹集成材に適した工法及びデザインの開発」(岡山県立大学デザイン学部)



対話発表風景

5、口頭発表 13:40 ~ 14:40@3312 教室 (司会: 久保雅義)

10: 土井俊央「評価対象製品のタスクに対応したユーザビリティチェックリストの提案」(和歌山大学大学院シス

テム工学研究科システム工学専攻)

11: 安井鯨太「UMLモデリングによるコンセプトに基づく画面設計の提案」(和歌山大学システム工学部)

12: 佐治寛典「HDTを応用した製品カタログの作成フレームワークの提案」(和歌山大学大学院システム工学研究科デザインエルゴノミクス研究室)

13: 柳本聡「メンタルモデルにおけるFunctional ModelとStructural Modelによる製品特性の把握」(和歌山大学システム工学部デザイン情報学科デザインエルゴノミクス研究室)

6、口頭発表 14:50 ~ 15:50@3312 教室 (司会: 尾崎 洋)

14: 山岡俊樹「機器操作部、GUIに対するメンタルモデル構築方法の試案」(和歌山大学システム工学部デザイン情報学科)

15: 平田一郎「GUIデザインパターンを活用した設計手法の検討」(兵庫県立工業技術センター)

16: 東野誠「放射線量計のユーザインタフェースデザイン調査」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科デザイン工学専攻)

17: 前川正実「利用状況に関するプロセス状況テーブルの3種類の活用と展望」(株式会社 操作デザイン設計)

7、口頭発表 16:00 ~ 17:00@3312 教室 (司会: 朴 貞淑)

18: 久保雅義「東日本大震災の被災弱者の現状と課題」(京都工芸繊維大学)

19: 谷本尚子「所作から見た椅子」(大阪人間科学大学環境・建築デザイン学科)

20: 坪郷英彦「ニュータウンと工芸多摩丘陵地域のニュータウンを事例として」(山口大学人文学部)

21: 三宅宏明「液晶ディスプレイを用いた色記憶再現による色の移行について」(山口大学大学院理工学研究科)

8、閉会挨拶 17:00 ~ 17:05@3312 教室 (久保雅義副支部長)

第5支部

前支部長 青木 幹太

第5支部では、九州地域の大学間の交流促進や教育・研究情報の共有等を目的に、春季は各大学の優秀な卒業・修了作品を展示、発表する「九州デザイン六大学展」を、秋季はデザイン研究に関する成果発表の場として「研究発表会・懇親会」を開催しています。平成23年度は、「九州デザイン六大学展」が3年目、「研究発表・懇親会」が6年目に当り、それぞれの活動が学会員の皆様の相互協力により、定着してきています。

平成23年度の活動内容について、以下にご報告致します。

1. 九州デザイン六大学展 2011 [合同卒業・修了優秀作品展]

平成23年6月14日（火）から6月19日（日）の6日間、福岡市天神地区にある商業施設BiVi福岡の1階から3階のイベントスペースを使って、西日本工業大学、近畿大学、崇城大学、九州産業大学、九州造形短期大学、九州大学の6大学の卒業・修了作品51点を集めて展示しました。



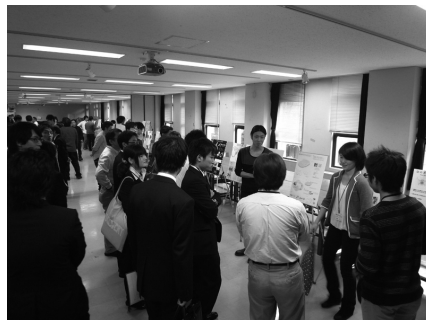
九州デザイン六大学展の様子

最終日の6月19日（日）には、午後1時から午後4時まで制作を担当した卒業生や指導教員が作品の前で説明を行い、一般の方々も自由に聴いて頂くことができました。平成23年度は、展示作品を網羅したA4両面印刷のチラシを制作し、来館者に配布するとともに、最終日にプレゼンテーションとその審査を行い、優秀賞4作品を選び表彰しました。平成24年度は、これまでの六大学のほか、他大学からの出

展希望があったことから、九州デザイン展（仮称）と名称を変更し、平成24年6月12日（火）から17日（日）まで、BiVi福岡で開催します。

2. 平成23年度研究発表会・懇親会

平成23年11月12日（土）に近畿大学産業理工学部（飯塚市）で、研究発表会・懇親会を開催しました。参加者は79名で、口頭研究発表が前年度の32件から41件に増加し、ポスター発表は12件でした。口頭研究発表は午前と午後、それぞれ3会場に分かれ、熱心な研究発表と質疑応答が行われました。ポスター発表は午前、午後の口頭研究発表の間に、実習室を使って行われました。発表する学生は研究内容を記したパネルの前に立って、自分達の研究を紹介するとともに、他大学の教員や学生の質問に丁寧に応えていました。研究発表会終了後、近畿大学構内の食堂を会場として懇親会が開催され、大勢の教員、学生が参加して交流を深めることができました。



研究発表会・懇親会の様子

平成24年度は、九州大学が担当校となり、10月下旬頃に九州大学で開催予定です。

平成23年度（平成23年4月1日－平成24年3月31日）決算報告

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
平成22年度繰越金	12,276,680	12,276,680	0	
1 正会員費（現）	17,577,950	17,334,500	-243,450	@13,000 徴集率 79.7% @6,500 徴集率 41.6%
2 正会員費（新）	1,680,000	2,066,500	386,500	@18,000×74名（一般 入会金：5,000、年会費：13,000） @6,500×113名（学生 入会金：免除、年会費：6,500）
3 賛助会員費（現）	882,000	769,685	-112,315	25件 769,685
4 賛助会員費（新）	30,000	30,000	0	@30,000×1件 30,000
5 年間購読会員費（現）	1,350,000	1,463,000	113,000	@25,000×57件 1,463,000
6 年間購読会員費（新）	100,000	50,000	-50,000	@25,000×2件 50,000
7 広告費	100,000	0	-100,000	0
8 東京都実践的デザイナー育成事業	0	500,000	500,000	500,000
9 学会誌掲載別刷料・負担金	4,750,000	2,025,185	-2,724,815	論文集別刷料・ｶｰ印刷負担金 1,215,500 作品集別刷料・ｶｰ印刷負担金 339,685 平成22年度作品集別刷料・ｶｰ印刷負担金 470,000
10 名簿売上金	1,225,000	0	-1,225,000	0
11 概要集売上金	1,400,000	2,061,500	661,500	@3,500×589冊 2,061,500
12 預かり金（税金）	0	20,945	20,945	20,945
13 雑収入	750,000	957,351	207,351	学会誌売上 203,040 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 754,311 その他 0
計	42,121,630	39,555,346	-2,566,284	39,555,346

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
本部事務局 & 理事会関係	9,212,000	7,798,242	-1413758	
1 本部事務局経費	7,282,000	6,708,083	-573,917	消耗品代 155,223 運営経費（春季大会出張費用含む） 67,290 ﾊｰﾄﾞ雇用費 2,100,000 通動費（@6,000×12） 72,000 事務合理化施設設備費 0 通信費及び電話代金 754,385 印刷代 174,597 雑費 179,618 会費引き落とし経費 122,094 賃賃料（@150,000×12ヶ月） 1,800,000 光熱費 121,889 アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿作成補助等) 1,090,987 納税準備金 70,000
2 理事会運営費	250,000	264,564	14,564	会場借用料、理事会運営経費等 264,564
3 役員活動費	600,000	566,000	-34,000	役員の諸活動に対する補助 566,000
4 名簿出版費	680,000	0	-680,000	通信費 0 編集・チェック（アルバイト雇用費） 0 印刷費(@1,300×500冊) 0 送料 0
5 選挙経費	400,000	259,595	-140,405	選挙に関する費用 259,595
出版関係	27,372,821	19,020,427	-8,352,394	
6 論文審査・論文集編集委員会経費	480,000	480,000	0	消耗品代 0 通信費 0 書類作成費 0 論文集編集費 0 審査・編集会費 480,000
7 作品審査・作品集編集	250,000	259,998	9,998	前年度不足分 9,998 消耗品代 0 通信費 0 書類作成費 0 作品集編集費 250,000 審査・編集会費 0
8 学会誌編集・出版委員会経費	90,000	74,345	-15,655	編集会議費 0 会報編集経費 40,000 交通費 1,840 消耗品代 32,505
9 特集号編集委員会経費	650,000	509,057	-140,943	第18巻4号編集委員会 130,000 第19巻1号編集委員会 119,057 第19巻2号編集委員会 130,000 第19巻3号編集委員会 130,000
10 印刷費	23,942,821	15,689,016	-8,253,805	平成22年度論文集（1冊） 1,120,140 平成21・22年度特集号（5冊） 3,991,050 平成22年度作品集（1冊） 2,733,381 論文集（5冊） 5,344,290 特集号（1冊） 573,300 作品集（0冊） 0 概要集(740冊印刷) 1,538,460 封筒代 388,395
11 出版物通信費	1,960,000	2,008,011	48,011	郵送料・事務代行料金（前年度分を含む@350,000×8） 2,008,011
大会関係	2,267,500	1,296,340	-971,160	
12 大会補助費	750,000	749,876	-124	平成23年度秋季大会補助 249,876 平成24年度春季大会補助 500,000
13 春季大会概要集編集委員会経費	357,500	75,025	-282,475	前年度支出分(平成23年度分)残金 -82,475 編集費・書類作成費（平成24年度分） 0 演題登録システム(PASREG) 利用料 157,500
14 春季オーガナイズドセッション費用	400,000	335,079	-64,921	335,079
15 学会セミナー費用	100,000	30,000	-70,000	30,000
16 総会準備経費	20,000	17,850	-2,150	総会経費、委任状・資料印刷代 17,850
17 学会各賞選考委員会経費	140,000	73,584	-66,416	書類作成費（学会各賞推薦状・資料等） 22,680 通信費 0 賞状・記念品代 50,904 会議費 0
18 国際デザイン会議	500,000	14,926	-485,074	国際デザイン会議会費(@13,000×1,643×2%) 0 国際デザイン会議活動費（運営会議活動費） 14,926

委員会関係		1,800,000	1,033,204	-766796.		
19	委員会経費	300,000	6,920	-293,080	共通費	6,920
20	研究部会共通経費	500,000	234,639	-265,361	共通費（8研究部会）	234,639
21	支部活動補助費	950,000	413,325	-536,675	5支部	413,325
22	市販図書企画・編集経費（デザインの歩み）	50,000	0	-50,000	編集費	0
23	東京都実践的デザイナー育成事業	0	378,320	378,320	人件費	192,000
					書類作成費	32,000
					機材	147,840
					消耗品	6,480
					雑費	0
広報関係		450,000	125,225	-324775.		
24	広報費	450,000	125,225	-324,775	大会ポスター、ちらし作成費・通信費	125,225
					ホームページ充実化	0
					その他	0
その他		1,019,309	10,281,908	9262599.		
25	学協会関連	505,000	451,552	-53,448	学術会議活動費（@60,000+@30,000+100,000(芸関連シンポジウム)）	187,852
					芸術関連シンポジウム分担金	15,000
					日本工学会活動費	0
					日本工学会会費	28,700
					CPD協議会会費	50,000
					JABEE年会費	100,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
					横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	0
26	予備費	514,309	30,000	-484,309		30,000
27	次年度繰越金	0	9,800,356	9,800,356		9,800,356
計		42,121,630	39,555,346	-2,566,284		39,555,346

[特別会計]

項目	平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	増減	予算額内訳
学会本部事務局常設基金	15,235,166	15,261,412	26,246	利息(¥26,246):基金に繰り入れ

平成23年度収支決算につき、上記のとおりご報告いたします。

平成24年5月30日 日本デザイン学会

本部事務局長 國澤 伸一

本部事務局幹事 小野 健一

本部事務局員 松原 久佳

監査 杉山 和典

監査 宮崎 隆

平成24年度活動計画

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

日頃はデザイン学研究へご寄稿いただき、心より御礼申し上げます。デザイン学研究が初めて発行されてから時代の進行に伴って「デザイン」というカタカナ用語が実に広範囲に様々な領域にわたって使われるようになってきました。それに伴ってデザイン学研究に投稿される論文も多様な領域からのものとなりつつあります。これは非常に喜ばしいことであると同時に、再度ここで「デザイン」および「デザイン学」という用語の持つ意味を再考すべき時期に到達しているようにも感じています。もともとデザイン学研究が担ってきた学際的意味と社会的意味を再考し、本論文集の方向性とその価値の見直しが必要であると考えています。そこで本年度は論文審査委員会に、委員長1名の他、委員3名、幹事6名をお願いし、計10名で論文審査委員会の運営を実施させていただくこととしました。昨年度より進行中のデザイン学研究の投稿、審査、編集の電子化、英文ジャーナル化に合わせて、投稿論文の審査区分（「論文」、「論説」、「報告」）の見直しとそれぞれの審査体制の整備を行いたいと考えております。また、投稿論文の査読をお願いさせていただく学会員各位の増強も図りたいと思っております。できるだけ多くの会員にご投稿いただくと同時に、できるだけ多くの会員にデザイン学研究へ投稿された論文の査読もお願い致したいと思っております。その試みにより、デザイン学研究はよりダイナミックに質・量ともに向上するものと確信しております。ご迷惑をお掛けすることも多々あるかとは思いますが、どうぞご理解とご協力をいただければと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

作品審査委員会

委員長 清水 泰博

新たな方針の下での活動となる作品審査委員会として、新たな委員構成にて本年度より2年間運営していくことになりました。今までの作品審査・作品集編集委員会との大きな違いは作品審査に特化した委員会となることです。そのことから作品論文+作品ムービーの査読・審査に、より厳格な立場で臨むことが求められていることと思います。作品集、論文集ともに今後はより時代に沿ったものとなるようオンラインジャーナル化を目指していくこととなります。これは学会誌編集・出版委員会を中心に本委員会も協力していくこととなります。作品集としましては昨年度までの須永委員長の下での2年間で実現した紙媒体+DVD-ROMによる形を基本的に踏襲し、応募形態についても簡便化を計った現在の方法を継続していきます。作品応募期間についてはより応募がしやすいように本年度は2週間程度延長し（8月中旬まで）、投稿機会の拡大を目指したいと思っておりますので、幅広い分野からの積極的な投稿をよろしくお願い致します。

学会誌編集・出版委員会

委員長 岡崎 章

H24年度は、論文集・作品集と特集号の電子化について取り組むことですが、電子化に伴う投稿規定の見直しと著作権の整備に重点をおきます。

論文集・作品集は、本年度中にJ-STAGEに移行するよう進める予定です。

特集号については、次年度に電子化が予定されています。

特集号は、既存の独立した出版ではなく、論文集の後に記載するという方針を受けて、特集号論文（記事）の論文種別を論文審査委員会と連携し整備する必要があるためです。これは、他学会同様、依頼論文を「解説」とするかなどの検討を行うことを意味してい

ますが、論文集の後に記載するために記載ページの自由度を高めることも可能になるため、投稿規定の変更についての検討も含まれます。

なお、特集号は、本年度中に研究部会、春季大会、秋季大会のパネルディスカッション等から選んで出版する予定です。

なお、本年度の編集委員構成は、黄ロビン・工藤芳彰・寺内文雄・永井由佳里、です。

研究推進委員会

委員長 須永 剛司

本委員会は、平成24-25年度の新体制で研究発表大会のテーマセッションおよび研究部会の活性化に取り組みます。

1. 研究発表大会のテーマセッション、学生プロポジションの推進と運営

札幌市立大学キャンパスで開催される第59回春季研究発表大会では、研究部会、研究グループ、そして本委員会が提案する8つのカテゴリーから、以下のテーマで研究発表が募集されました。大会では多様な研究の議論からデザイン学のこれからが展望されます。

1) 家具・木工研究部会

①伝統的資源の現在学

2) デザイン理論・方法論研究部会

①デザイン科学の枠組みとタイムアクシス・デザイン

②形態論と創発デザイン

③感性デザインと情緒デザイン

④ロバストデザイン、ユニバーサルデザイン、ユーザビリティ

3) 情報デザイン研究部会

①地域社会と情報デザイン

②デザインとワークショップ

4) サービスイノベーションデザイン研究部会

①サービスイノベーションデザイン

5) 創造性研究部会

①社会に関わる創造性 メタデザイン

6) バイオメディカルデザイン研究部会

①医療・医用機器とデザイン

7) 岡崎 章 (拓殖大学工学部デザイン学科)

①子どものためのデザイン

8) 日本デザイン学会研究推進委員会

①震災とデザイン

また、本大会では研究発表とは別に「学生ワークショップ」が開催されます。

2. 研究部会の活性化、若手研究部会の支援

現在 16 ある研究部会の全体の活動俯瞰と個々の活動状況を把握し、学会員に広報することをおして研究部会活動の活性化を図ります。

以下の研究部会が登録されています。

1. 用語部会
2. 教育部会
3. メディア&デザイン部会 (M&D)
4. デザインサーベイ部会 (DS)
5. 家具・木工部会
6. 環境デザイン部会
7. プロダクトデザイン研究部会 (PD)
8. デザイン史部会
9. デザイン理論・方法論研究部会 (DTM)
10. 情報デザイン研究部会 (InfoD)
11. ファッションデザイン部会
12. 創造性研究部会
13. タイポグラフィ部会
14. サービスイノベーションデザイン研究部会 (SID)
15. バイオメディカルデザイン研究部会
16. プロモーションデザイン研究部会

企画委員会 総合企画

委員長 松岡 由幸

今年度の企画委員会総合企画は、デザイン学研究の推進とその訴求を通じて、デザイン学の学術基盤の充実ならびに実務への活用拡大を狙いとし、特に、産学連携と若手の参画に視座をおき、活動を進めていきたいと考えます。

まず、春季大会ではオーガナイズドセッションとして、「つなぐ 環境デザインがわかる」、「キッズデザインの展開」、「これからの日本のモノづくりと

デザイン」、「演習課題から探るデザイン思考の特質」の4件、ならびに学生交流ワークショップとの連携企画として「磁場から生まれるこれからのデザイン」が実施されます。

また、11月17日(土)に実践女子大学にて実施される秋季企画大会においては、創立60周年を迎えるJIDAとの共同主催のもと、これからのデザインについて、基調講演、学生プロポジション、パネルディスカッションなどを行う予定です。

このほかにも、講習会やセミナーの実施を検討しており、これらの諸活動を通じて、デザイン学の発展と地位の向上を図る所存です。

企画委員会 支部企画

委員長 浅沼 尚

ここ数年、各支部ともに支部大会を開催するなど、大変活発な活動が展開されています。今年度も従来並み以上の活性化を図る予定ですが、その際、特に地域の特性を活かした産学連携と若手の参画の両者を狙いとし、総合企画と連動しつつ、活動を推進していきたいと考えます。

具体的には、若手デザイナーや学生に向けたデザイン方法に関する講習会の実施、企業のデザイナーと大学研究者とのディスカッションの場の設定などを考えています。

これらの諸活動を通じて、若手や企業のデザイナーとのさらなるコラボレーションを進めるとともに、デザイン学会への参画も促進されるよう、努めていきたいと考えます。

教育・資格委員会

委員長 山内 勉

本委員会の主要課題である「教育」と「資格」の制度化に向けて、引き続きその基盤づくりの活動を進めます。

「継続教育」については、一昨年度に開講した「産業デザイン分野における産学が一体となった実践型人材育成

プログラム」のような試みを、内容充実を図りながら継続実施できるよう努めていきます。

また引き続き、社団法人日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)が進めている継続教育(CPD)のしくみづくりにおいて、学会活動の成果が得点として記録・評価される「ポイント制度」の導入を図ります。

これに関連した検討事項として、デザインの実務領域で活躍するさまざまな職能・立場の人が意欲的に学会活動に参加し、デザイン実績や成果の発表がしやすくなるような作品集や論文集のあり方を論文審査委員会や作品集編集委員会とともに検討します。さらに、学位取得、研究・教育職をめざす人のための「研究ロードマップ」の整備を検討します。

「資格制度」については、JIDAがプロダクトデザイン(PD)検定1級、2級制度の上位に位置付けられるプロダクトデザイン・プロフェッショナル認定制度を検討する過程に、上記継続教育(CPD)のしくみづくりとあわせて参画していきます。

また引き続き、技術者教育認定機構(JABEE)の業務に参画しつつ、関連他学会等の機関や組織からも積極的に情報収集し、デザイナーの職能や技能が公的に認知され得るような資格制度の実現に向けた活動を進めていきます。

広報委員会

委員長 山崎 和彦

本委員会の機能は、会員諸氏と学会活動をつなぐことのマネジメントであると同時に、学会活動と社会、学会活動と世界をつなぐことである。本年度は「従来から引き継ぎの活動」と、「新たな広報活動」を推進していきたい。「従来からの引き継ぎの活動」とは、電子図書館構想への対応、論文データベースの作成、論文投稿査読システムの電子化などの活動である。「新たな広報活動」とは、これまでは会員に向けての活動が主体であったが、本

年度は社会に向けての活動を充実させたい。例えば、SNS の活用、定期的なニュース配信、他のメディアとの連動、英文による情報提供などが考えられる。

■従来からの引き継ぎの活動

1. 情報コンテンツの適切な活用による学会員サービスの向上

国立情報学研究所の電子図書館サービス CiNii において、本学会誌の創刊号からの電子化が進行中である。

2. 著作権規定の見直しと効率的運用を検討する

電子化された著作物の中に含まれている図版などの著作権処理問題などについて、学会誌の電子化と合わせて整理し投稿規定などに反映などを検討し適切な対応をする。

3. オンラインジャーナル化の準備

J-Stage のシステムを利用して、本学会誌「デザイン学研究」のオンラインジャーナル化を完成させる。さらに、作品集の電子化について、可能であれば電子化を目指す。

4. www のコンテンツの維持管理

www による適切な情報提供を推進する。

■新たな広報活動

1. SNS の活用の検討

Facebook や Twitter などの SNS を活用して情報提供やコミュニケーションの検討

2. 定期的なニュース配信の検討

会員や関連者へ、定期的なニュース配信の検討

3. 関連団体やメディアとの連動についての検討

関連団体への情報発信や、他のメディアへの情報発信の検討

4. 英文による情報提供方法についての検討

財務委員会

委員長 生田目 美紀

学会財務の健全な運用を行うための活動方針を主に以下の二つの問題に絞って活動します。

(1) 昨年度導入した学生会員制度を

会員数増加につながるものに発展させるための方策を検討する。

(2) 研究誌等の出版物の電子化を推進する。

(1) に関しては、学生キャンペーン（入会金免除・会費減免）で入会した方の学生会員への移行手続きをすすめるとともに、学生会員から正会員へのスムーズな移行など、学会全体としての会員数の増加につながる手立てについて、他の委員会と連携しながら積極的に打ち出して行きたい。

(2) に関しては、広報委員会の全面的なご努力により、今年度中に学会誌電子化に伴う著作権の問題を含む投稿規定の改定を行い、概要集等一部の出版物の電子化が実施される。財務としては、学会誌編集出版委員会、本部事務局と連携しながら、電子化に伴う収支のバランスをシミュレーションし、学会の法人化を視野に入れた財務計画を立案する。

市販図書企画・編集委員会

委員長 井上 勝雄

平成 24 年度の活動として、次の 2 点を予定しています。

①日本デザイン学会と日本機械学会、日本設計工学会の 3 学会からのメンバーを中心とする『デザイン科学辞典』（仮称）を企画しています。当初は Web サイトで公開し逐次内容を充実して出版（含、電子書籍）に到るという実行計画です。まず本年度は載せる用語の検討と初期段階の Web サイトのアップを予定しています。なお、日本語と英語の両方を採用予定です。そのため、海外の執筆者の参加も期待しています。そのサイトを IASDR2013 で周知する予定です。

②新しい視点からのデザインに関する事典を企画立案しています。広く一般の人々にもデザインを知ってもらえる内容にしたいと企画しています。本年度は企画立案と出版社の検討を予定しています。

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

今年度の Design シンポジウムは、日本建築学会を幹事学会（本学会は共催）として、10 月 15 日から 16 日にかけて京都大学で催されます。今回は、システム科学が注目される今日の背景もあり、「システム・インテグレーションとしてのデザイン」に関するパネルディスカッションが行われる予定。

ハーバード・A・サイモンの著書「システムの科学」が改めて注目されている昨今、本学会においても、デザイン科学とシステム科学の関係性やシステムデザインの在りようについてのさらなる議論を深めることで、この領域における学術基盤の先導的役割を担う必要性を改めて感じるところです。

IASDR 担当

担当理事 古屋 繁

昨年度までの委員会の尽力が実り、本年 6 月 6 日に IASDR2013 は「日本学術会議と共同主催する国際会議」として申請が閣議了解があった。これで正式に日本学術会議、日本感性工学会との共同主催が決定し、国際会議の準備はいよいよ本格化し始めた。当初開催していた組織・運営委員会に加えて、実行委員会を新たに立ち上げて、具体的な運営業務を加速させることとなる。

特に、広報は急務であり、英文のサーキュラー、和英のサーキュラー、web を完成させ、各方面からの投稿の獲得に努めなくてはならない。

また、基調講演や特別セッション、展示などのプログラムを具体化し、10 月開始と見込まれる、発表申し込みを充実させなくてはならない。平行して、企業による支援も見込む必要があり、各方面に積極的に働きかける。

10 年ぶりの日本での国際デザイン

学会の開催であり、日本デザイン学会全体の取り組みとして、学会、学会員の皆様のご協力をお願いし、大会成功に向けて努力をしていきたい。

日本学術会議

第一部／人文・社会科学

担当理事 清水 泰博

本年度より前任の黒川威人先生の後を受けて日本学術会議の第一部である「芸術学関連学会連合」の担当を務めさせていただきます。昨年度は黒川威人先生のご尽力により本学会からの初めてのテーマ採択となりました。今後はこれを契機に本学会からのテーマ採択、またシンポジウムへのパネリスト参加をより進めていきたいと思っております。

尚、主な活動である公開シンポジウムは、第7回目を仙台市博物館ホールにて「地・人・芸術 - <芸術と地域>を問う -」をテーマに、6月16日に盛会裏に行われたところです。地域の活力、機能の低下という現代日本の問題に対する芸術の可能性を問うことをテーマとしたもので、例年であれば東京で開催するところですが、今回は被災地である仙台での開催となったものです。

日本学術会議

第三部／理学・工学

担当理事 森田 昌嗣

学術会議の動向をみながら第3におけるデザイン学の位置づけ等を検討するとともに喫緊にはIASDRでの協力依頼等を進める。

横断型基幹科学技術 研究団体連合

担当理事 松岡由幸

今年度の雑誌「横幹」（横幹連合の

定期刊行物）の4月号において、当学会が主となり進めた特集号「横断的活動としてのタイムアクシス・デザイン」が刊行されています。この特集号では、青木弘行前会長の「持続的発展に向けた価値の創造 - 時間軸をデザインする時代 -」、小林昭世先生の「物語とゲームによる経験のタイムアクシス・デザイン」など当学会員による合計6編の論文が掲載されており、本学会の存在感を示すことができました。

また、当学会から担当として任命され、理事として参加している松岡は、今年度、横幹連合の会誌編集委員長を仰せつかっています。そのため、今年度はこのことを通じて、横断型の他の学術領域とのコラボレーションを深化させるとともに、本学会活動の訴求に務めていく所存です。

日本工学会

担当理事 國澤好衛

日本工学会の事務研究委員会の議論は、学協会が抱える喫緊の課題そのものとなっています。現在の主要課題である、公益法人制度改革に伴う公益認定への対応および学協会連携して行う横断的な継続教育については、当学会においても極めて重要なテーマとなっています。これまでも、事務研究委員会をベースに関連情報の収集と他学協会の動向などを探ってきましたが、今後もこの場を活用し継続して先行する学協会の状況をベンチマークし、当学会の今後の法人化や継続教育への有用な視点を会員の皆様に提供していきたいと考えております。

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

本年度は、学会活動の中心となる論文誌の電子ジャーナル化や投稿の電子化の準備、春季大会概要集の電子化、来年度の国際学会開催に向けた準備など、複数の新たな取り組みが具体的に動き始める年にあたるため、これまで

以上に各委員会と本部事務局との連携が重要になると考えられます。各委員会活動、支部活動ができるだけ円滑に進むよう協力し、学会活動を支えていきたいと思っております。また、昨年度から繰り越しとなっている会員名簿の発行については、あらためて発行に向けた準備を進めたいと考えております。

数年来懸案となっている会員数の減少については、本年度スタートした学生会員制度の定着とあわせ、対応を検討していきたいと考えております。やはり懸案となっている法人化については、他学協会の動向を参考として、引き続き検討を進めていきたいと考えております。

学会の財務状況は改善されてきておりますが、上記の新規事業に伴い見直しの必要な部分が発生する事も予想されるため、変化に合わせ、一層の財務体質強化に向けた検討が必要と考えております。

事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えたスムーズな対応を心がけていきたいと思っておりますので、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

第1支部

支部長 両角 清隆

第1支部では2年に1回、支部大会を開催し、この活動を中心に会員同士の連携を深め情報を共有する活動を進めて来た。これまでに、第1回仙台会場（東北工業大学）、第2回山形会場（東北芸術工科大学）、第3回函館会場（公立はこだて未来大学）、第4回札幌会場（札幌市立大学）を開催した。来年、平成25年度に第5回支部大会を開催できるよう、平成24年度から計画を進めたい。

また、これまでの活動を振り返り、また、大きな社会の変化を支部なりに考えて、今後の支部で扱う内容について、以下の内容を幹事や支部メンバーで検討し実施したい。

1) 学生が活動の中心となれるような取り組み。支部大会で学生が生き活

きとした取り組みを行った実績を伸ばす方法を考え、実践する。

2) 地方が自立し、また世界とつながる方法の検討とモデル化。中央・地方という関係から、地方のそれぞれが自立する道を探り、東日本大震災にもみられたように、世界と直接つながる可能性を広い意味でのデザインの視点から探りたい。

第2支部

支部長 浅沼 尚

本支部では、関東圏に勤務・在住しているデザイナーが多いことを生かし、まず、多くのデザイナーとデザイン分野の教育・研究者が直接対話を可能とする産学連携イベントを幾つか企画します。たとえば、来る8月1日(水)には、JIDAやデザイン理論・方法論研究部会との連携のもと、「デザイン塾：タイムアクシス・デザインと日本独自の産業化を考える(仮)」(慶應義塾大学協生館にて)を実施計画中です。ここでは、デザイナー側からは、日本においてこれまで使用段階でのデザインをいかに取り組んできたかについて事例を中心に語り、教育・研究者側からは、タイムアクシス・デザインの方法論について述べる予定です。まさに現場のデザイナーと教育・研究者が車座になって率直な意見交換を行い、今後の日本産業の1つの方向性について、共に考える場を設定する予定です。

さらに、本年度において、デザイン科学やデザイン教育、また新たにデザイン哲学に関わるイベントの実施を検討しており、副支部長：久保光徳先生、幹事：北村武士先生との連携のもと、関東圏の多くの学会員の方々にご参加いただけるよう、裾野の広い活動の展開を目指しております。

第3支部

支部長 國本 桂史

昨年度までの会員交流と活動の活性化に加え、平成24年度は学生会員の

拡大も目標として、下記の4事業を実施します。

1. デザインカフェ事業

地域や他分野の人々との交流とデザイン啓蒙等を目的として、気軽にディスカッションができる“カフェ”形式の小規模講演会を本年度2回開催します。

【第1回】

日時：7月上旬(日時未定)

講師予定：石原 謙 教授(愛媛大学大学院医学系研究科)

場所：愛知県名古屋市内にて調整中

【第2回】

日時：12月中旬(日時未定)

講師予定：戸蒔 創 氏(名古屋市立大学理事長・学長)

場所：愛知県名古屋市内にて調整中

2. 第3支部研究発表会・懇親会

第3支部会員がどのようなデザイン活動や研究を行っているのかを、発表会を通じて相互に知り合い、交流会を通してより深い相互交流を図ることを目的としています。例年3月に年1回開催し、学会発表の練習機会ともなっています。口頭発表とポスター発表があります。

日程：2013年3月17日(日)

開催校：調整中

3. 会員間の情報交流の充実

メーリングリストサーバーを変更しWebサイトの充実により、会員間の情報の受発信の活性化を目指します。また、積極的な他支部との情報や人的交流も図ります。

4. 学生会の構成

各大学より1名程度を学生会員リーダーとして学生会を構成し、学生会員の相互交流および支部研究発表会への参加も含め積極的な学会参加を促進します。学生会を中心としたツアーイベント等の開催を検討しています。

第4支部

支部長 三橋俊雄

第4支部では、1)ユニバーサルデザイン研究会、2)インタラクシオンデザイン研究会、3)地域生活文化

研究会、4)近畿・中国・四国地区研究会など関西地区における学術研究活動を行う。ユニバーサルデザイン研究会では、実践的なUD活動を推進するための研究会を開催する。インタラクシオンデザイン研究会では、当該分野の研究者やデザイナーを招いて講演会を開催し、新たなライフスタイルとインタラクシオンデザインの関係について参加者と議論する。地域生活文化研究会では、フィールドワークを通して生活文化のあり方を見つめる活動を積み重ねていく。近畿・中国・四国地区研究会では、横断的なテーマ設定で研究会を企画開催し、地域間・大学間連携による議論の場を創出していく。また、メーリングリストを活用し、地域ネットワークのさらなる拡大をめざしていく。以上のほかに、関連学会支部との研究会等の共催も、支部メンバーの協力を得て検討していく。

第5支部

支部長 伊原 久裕

第5支部では、昨年に引き続き、「研究発表会・懇親会」の開催と、4回目となる「九州デザイン大学展」の開催を目指して活動を行います。

1. 九州デザイン大学展2012

平成24年度は、昨年度に開催して好評だった福岡市で最も人が集まる天神地区の商業施設「BiVi 福岡」を会場として、6月12日から17日まで、九州所在の大学・短大等の卒業・修了優秀作品を集めた「九州デザイン大学展2012」を開催します。昨年度までの西日本工業大学、九州造形短期大学、近畿大学、九州産業大学、九州大学、崇城大学の6つの大学に加えて、今年度は、さらに大分県立芸術文化短期大学が参加することで充実した展覧会となる予定です。展覧会では、学生によるプレゼンテーションと優秀な作品の表彰を昨年に引き続き、実施する予定です。

2. 平成24年度研究発表・懇親会

支部催活動の主軸と位置づけている研究発表・懇親会を、今年度は九州大

学で、10 月に開催する予定です。これまでと同様、研究発表会の内容の充実に努め、事前審査を経た概要集の編集発行を行います。また、異なる大学の学生同士の交流や教員間のデザイン教育に関する情報交換の場として、学生プロポジションについても、充実に努めます。

以上の支部の活動の主軸を成す2つの催しを持続していくために、今後、幹事校の負担減や、予算上の工夫についても検討していきます。

平成 24 年度（平成 24 年 4 月 1 日 - 平成 25 年 3 月 31 日）予算（案）

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	予算額内訳
平成23年度繰越金	9,800,356	9,800,356
1 会費（現）	16,859,700	正会員@13,000×1,608名×0.8(徴集率) 学生会員@6,500×30名×0.7(徴集率) 16,723,200 136,500
2 会費（新）	1,810,000	正会員@18,000×50名（一般 入会金：5,000，年会費：13,000） 学生会員@6,500×140名(入会金：免除，年会費：6,500) 900,000 910,000
3 賛助会員費（現）	837,000	@30,000×31件×0.9(徴集率) 837,000
4 賛助会員費（新）	30,000	@30,000×1件 30,000
5 年間購読会員費（現）	1,450,000	58件(1,450,000) 1,450,000
6 年間購読会員費（新）	100,000	@25,000×4件 100,000
7 広告費	200,000	@50,000×4件 200,000
8 学会誌掲載別刷料・負担金	4,320,000	論文集別刷料・ｶｰ印刷負担金（@30,000×12×6） 作品集別刷料・ｶｰ印刷負担金（@70,000×10+@100,000×4） 平成23年度作品集別刷料・ｶｰ印刷負担金 2,160,000 1,100,000 1,060,000
9 名簿売上金	1,225,000	@3,500×350冊 1,225,000
10 概要集売上金	1,750,000	@3,500×500冊 1,750,000
11 雑収入	800,000	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 750,000 0
計	39,182,056	39,182,056

続

■支出の部

項目	予算額	予算額内訳
本部事務局 & 理事会関係 9,397,000		
1 本部事務局経費	7,617,000	消耗品代 250,000 運営経費（春季大会出張費用含む） 200,000 パート雇用費（@150,000×12,@150,000×2） 2,100,000 通勤費（@6,000×12） 72,000 施設設備費 200,000 通信費及び電話代金 1,000,000 印刷代 250,000 雑費 150,000 会費引き落とし経費 150,000 賃貸料（@150,000×12ヶ月） 1,800,000 光熱費 140,000 アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿作成補助等) 1,150,000 税金準備金，労災保険料 155,000
2 理事会運営費	250,000	会場借用料、理事会運営経費等 250,000
3 役員活動費	600,000	役員の諸活動に対する補助 600,000
4 名簿出版費	930,000	通信費 250,000 編集・チェック（アルバイト雇用費） 100,000 印刷費(@1,200×400冊) 480,000 送料 100,000
5 選挙経費	0	選挙に関する費用 0
学会誌審査・編集関係 1,470,000		
6 論文審査委員会経費	480,000	480,000
7 作品審査委員会経費	250,000	250,000
8 学会誌編集・出版委員会経費	90,000	90,000
9 特集号編集委員会経費	650,000	第19巻4号編集委員会 130,000 第21巻1号編集委員会 130,000 第21巻2号編集委員会 130,000 第22巻3号編集委員会 130,000 第23巻4号編集委員会 130,000
学会誌印刷・通信関係 23,170,000		
10 印刷費	21,070,000	平成23年度論文集（1冊） 1,250,000 平成23年度特集号（3冊） 2,100,000 平成23年度作品集（1冊） 2,500,000 論文集（@1,250,000×6冊） 7,500,000 特集号（@900,000×4冊） 3,600,000 作品集（@2,900,000×1冊） 2,900,000 概要集C D(900セット) 800,000 封筒代 420,000
11 出版物通信費	2,100,000	郵送料・事務代行料金 2,100,000
大会関係 2,267,500		
12 大会補助費	750,000	平成24年度秋季大会補助 250,000 平成25年度春季大会補助 500,000
13 春季大会概要集編集委員会経費	557,500	前年度未払い分 200,000 編集費・書類作成費（平成25年度分） 10,000 アルバイト雇用費（平成25年度分） 170,000 通信費（平成25年度分） 20,000 演題登録システム（PASREG）利用料 157,500
14 春季オーガナイズドセッション費用	400,000	400,000
15 学会セミナー費用	100,000	100,000
16 総会準備経費	20,000	総会経費、委任状・資料印刷代 20,000
17 学会各賞選考委員会経費	140,000	書類作成費（学会各賞推薦状・資料等） 5,000 通信費 5,000 賞状・記念品代 80,000 会議費 50,000
18 国際デザイン会議	300,000	国際デザイン会議会費 0 国際デザイン会議活動費（運営会議活動費） 300,000

委員会関係		1,650,000		
19	委員会経費	300,000	共通費	300,000
20	研究部会共通経費	500,000	共通費（現行16研究部会）	500,000
21	支部活動補助費	800,000	@150,000×4支部, @200,000×1支部	800,000
22	市販図書企画・編集経費（デザインの歩み）	50,000	編集費	50,000
広報関係		450,000		
23	広報費	450,000	大会ポスター, ちらし作成費・通信費	300,000
			ホームページリニューアル	100,000
			その他	50,000
その他		777,556		
24	学協会関連	390,000	学術会議活動費（@60,000+@30,000）	90,000
			日本工学会活動費	10,000
			日本工学会会費	40,000
			CPD協議会会費	50,000
			JABEE年会費	100,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合会費	70,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	30,000
25	予備費	387,556		387,556
26	次年度繰越金	0		0
計		39,182,056		39,182,056

[特別会計]

項目	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	予算額内訳	
学会本部事務局常設基金	15,261,412	11,261,412	IASDR2013へ運営資金として貸出	4,000,000

名誉会員賞贈呈

77号	岩田 州夫 氏
78号	上原 勝 氏
79号	河原林 桂一郎 氏
80号	庄子 晃子 氏
81号	野口 尚孝 氏
82号	降旗 英史 氏